

交差運動も「ダイヤ改正実現」

新潟地本は2月27日、申13号・2019年度「システムチェンジ・コストダウン計画(ダイヤ改正)」に対する申し入れの団体交渉を行いました。3月実施のダイヤ改正では新たな運輸区で短時間行路が設定される一方で、実施から1年経過して見えてきた諸課題、乗務員の要員問題や労働時間の考案、車両や鉄道設備の改善要求など計44項目について議論を行いました。

◆短時間行路関係

新津運輸区の車掌の短時間行路が急遽設定された理由を明らかにするよう求めました。支社側は、設定できると判断できたことから設定したが、判断が遅く現場に混乱を生じさせた認識は

あるとしました。地本交渉団は、箱ダイヤから単純に列車を抜いてその分の要員増が許されるならいつでも出来たはずだと指摘し、現場のダイ

ヤ改正プロジェクトの取り組みをないがしろにして短時間行路への検討の余地を与えなかったことを厳しく指摘しました。支社側は、指摘は受け止め、今後は現場のニーズを大切にしたいとしました。

一方で酒田運輸区に短時間行路を設定しない理由を質すと、ニーズの有無、職場の規模、ダイヤ設定等総合的に勘案した結果と回答しました。

◆列車ダイヤ・乗務員運用関係

次期ダイヤ改正年度における運転士・車掌の要員需給の見直しについて質しました。妊娠や若年退職まで想定した要員計画はしていないとする支社側に対して交渉団が、妊娠をイレギュラー扱いしてはならないと訴えたと支社側は、準備率のような考え方は無

いながら、全組合員でたたかいを創り出してきました。苦渋の判断により集会は中止したものの、職場から創意工夫し、たたかいを展開してきました。労働組合の重要性が高まっているなか、組合員と家族、そしてすべてのJR労働者が安心して働ける職場づくりをめざし全組合員でたたかいを進めていきたいと思います。

側は、どうやっても要員増になってしまふことは要素の一つとしながらも、制

「その他時間」を超える業務指示は行わないこと

◆ワンマン関係・設備関係など

白山駅の中線にワンマン列車を運用しないよう求めると支社側は、赤羽対策と呼ばれる指定箇所なので多くの本数を入れる必要があったとしました。本数ではなく、安全上の問題からワンマンはやめるようにという要求だと指摘すると支社側は、現地確認し理解しているとして、今回はこのまま進めるが組合側からの指摘に踏まえ検証していくとの考えを示しました。

これまでの考え方と異なることから詳細な説明を求めると支社側は、分解して回答できないが、着台整備の時間は秒単位で加算し、1秒の端数は1分に切り上げていて切り捨てはないとしました。

職制による格差ペアを回答

2020年度賃金改善等に関する申し入れ

中央本部は3月13日に申21号・2020年度賃金改善等に関する申し入れの第3回団体交渉を行いました。経営側より「所定昇給額の1/10ならびに主幹職と技術専任職およびS等級以上への200円、主務職およびT等級への100円の加算」「エルダ社員、グリーンスタッフの基本賃金への400円の加算」「第二基本給は変更しない」「終身雇用・年功序列型賃金は、今の雇用形態を変える考えはない」とする回答を受け、持ち帰り検討することを通告しました。中央執行委員会が直ちに稟議を行い、「回答は要求と額面に大きな乖離があること」「求めていた一律回答ではなく、職制で格差をつけたこと」は納得し



3日に開催を予定していた「2020春闘総決起集会」を取り組みの大きな柱に据えながら、全組合員でたたかいを創り出してきました。苦渋の判断により集会は中止したものの、職場から創意工夫し、たたかいを展開してきました。労働組合の重要性が高まっているなか、組合員と家族、そしてすべてのJR労働者が安心して働ける職場づくりをめざし全組合員でたたかいを進めていきたいと思います。

「その他時間」を超える業務指示は行わないこと
「その他時間」を超える業務指示は行わないこと
「その他時間」を超える業務指示は行わないこと

